

令和6年度第1回白井市生涯学習推進委員会

- 1 開催日時 令和6年5月29日（水） 午後2時から午後4時まで
- 2 開催場所 白井市役所東庁舎 3階 会議室303、304
- 3 出席者 鈴木委員長、岩崎委員、宗政委員、松岡委員、佐藤委員、永井委員、高橋委員、吉弘委員、下堂薫委員、比屋根委員、三浦委員、小川委員
- 4 欠席者 福田委員、河合委員、平川委員
- 5 事務局 西口生涯学習課長、中原係長、三橋主査補
- 6 傍聴人 なし
- 7 議題 (1) 令和5年度公民館事業報告について
(2) 令和6年度社会教育関係団体の認定について
(3) その他

8 議 事

[委員長] 早速進めさせていただきます。

議題1、令和5年度公民館事業報告につきまして、事務局に説明をお願いいたします。

[事務局] それでは、令和5年度公民館事業報告についてご説明いたします。

令和5年度事業報告についてですが、これまでは、事前に資料を送付して、ここでは事前に送付させていただきましたファイルになっております令和5年度白井市公民館等講座、学習のまとめを使用いたします。市内の公民館及び公民館類似施設で実施しました講座や事業の報告書となっております。

市内の公民館や公民館類似施設では、市の第5次総合計画において目指す将来像、ときめきと緑あふれる改革都市の実現に向けて、地域性を生かした特色のある講座や事業を展開しております。

昨年度の報告時点では、新型コロナウイルス感染症の影響を色濃く受けていた時期でしたが、それでも、その後については、感染症の位置づけが5類に移行したことから、講座や事業につきましては、できる限り通常に戻した実施をしてほしい旨、お伝えをしてまいりました。

それでは、この後、各館から事業についての報告をしていただきます。

なお、資料にあります公民センター、白井コミュニティセンター、西白井コミュニティプラザの事業報告については、コミュニティ施設事業となりますので、参考資料とさせていただきます、この場での説明はございませんのでご了承ください。

これから各館の説明に移りますが、質問については、全ての館の報告終了後に行いたいと思います。

それでは、順番に西白井公民館からお願いいたします。

[西白井公民館] それでは、西白井公民館の令和5年度事業報告について発表いたしま

す。

8ページをご覧くださいませ。

令和5年度は、昨年5月7日までコロナ禍で様々な制限がありました。その後、感染症の扱いが2類から5類になり、自粛生活が緩和され、徐々に元の生活に戻ってきました。コロナ禍で中止にしていた講座も復活させました。特に食に関係した講座など人気がありました。それに伴い、新しい講座として、和菓子講座を開催いたしました。

令和5年度は、生活も公民館の講座も元どおりにして、普段の公民館での活動を復活させることに心がけしました。来館者数も令和4年度より、公民館、児童館、憩いの家、図書室など、センター全体に大幅に増加いたしました。

しかし、個々のサークル活動を見てみると、完全復活と言えないサークルも見受けられます。公民館でも、サークル活動がしやすいように協力していき、盛んな活動を願っています。

次に、令和5年度に実施した講座について抜粋して説明します。11ページのほうをご覧くださいませ。

こちらに重点的な講座を載せてあります。最初に、「親子体操&ママヨガ」ですけれども、こちらは、子供が幼稚園や保育園などに行っていて、親子で参加できない母親にもヨガでリフレッシュしていただこうと工夫をしました。児童館職員やボランティアの保育士さんにも手伝ってもらい、母親がヨガで活動しているときに子供の面倒を見たりして、母親が充実してヨガに取り組むことができました。参加者の状況に応じて柔軟に対応して、満足してもらいました。

次に、「親子で！科学体験教室」です。前期は、例年どおり人気集中していましたが、後期は、前期ほど申込み数がありませんでした。常に人気があるだろうと敬遠されたのではないかと思われました。今年度は、前期、後期の2期制ではなく、通年で申込みをできるようにしたいと思っています。内容は、近くの公園に出かけて実験をしたりして、館内だけではなく楽しい講座になっていました。

次に、「親子でパン教室」です。動物パンを作成し、親子共々楽しんでいました。難しいところは親に手伝ってもらい児童もいましたが、自分で作ったパンは格別で、最後まで完成させたことで大変満足していました。2回実施しております。欠席者もなく、人気がありました。

次に、「子ども将棋教室」です。久しぶりに開催することができました。世の中は藤井聡太名人のブームで話題になっていて、将棋をやりたいという児童の希望があり、9月から月1回、定期講座を開始しました。月によって参加人数にばらつきがあり、まだ人数が安定していませんが、令和5年度は開催することを目的にしていたので、令和6年度は将棋のイベントを設けるとか、あと講師の方も囲碁を教えられるとのことなので、将棋のほかにも囲碁ができるようにしていきたいです。

次に、成人教育分野の「和菓子講座」です。地元白井の老舗和菓子屋さんの職人さんを講師としてお招きして開催しました。申込みも、開始初日から定員を満たし、大変人気がありました。この講座は、当初1回開催の予定でしたが、受講できなかった方からの希望が多くあり、後半にもう一回追加をし開催しました。1回目に当日キャンセルが1人出たのが残念でした。

次に、「100歳まで元気！」シリーズです。年4回開催し、内容はタオルマッサージ、介護保険、脳トレ、フレイル予防を行いました。参加者が60歳以上の方がほとんどでしたが、100歳までに元気に過ごすためには、中年世代の方にも参加して学んでいただける内容になっていますので、講座名を変えるなどして、さらに工夫すべきだったのではないかと思います。

次に、「白井ネクスト5・10」です。白井魅力発見の散策では、コースを従来の公民館近くのルートから、ちょっと離れた市役所近辺のコースに変更して、マンネリにならないように工夫をして好評でした。毎年コースを変えて工夫していこうと思います。

次に、「手芸カフェ」です。講座を開始した頃は、参加人数が安定せず少数でしたが、毎月地道に開催した成果があり、参加人数も増えて10人以上と安定してきました。毎回、課題のキットの選択も工夫して、参加者を満足させています。さらに、参加者の交流も増えてきました。この講座で知り合った方たちがお友達になったそうです。

次に、「西白井複合センターまつり」です。令和5年度は、野外飲食スペースにキッチンカーを1台増やして3台にしました。あと、テントも2張り設置して雨天にも備えましたが、当日の天気は晴天で、暑くもなく寒くもなく、最高の気候に恵まれました。参加団体も、前年度より2団体増え29団体となり、充実していました。サポートナースの健康相談も大変好評でした。土日の2日間開催でしたが、発表が日曜日に集中してしまい、土曜日の発表とアンバランスになってしまいました。次回からの検討事項としていきたいと思っています。

以上、かいつまんで講座の報告をさせていただきましたが、これ以外にも様々な講座、事業を開催しました。令和5年度は、自粛生活から脱却し、まずは元どおりの生活、公民館活動に戻すことを心がけました。令和5年度の様々な反省を踏まえて、今年度もさらに盛り上げていこうと思います。

以上です。

[事務局] ありがとうございました。

続きまして、白井駅前公民館、お願いいたします。

[白井駅前公民館] 白井駅前公民館の事業報告をさせていただきます。

講座、学習のまとめの26ページをご覧ください。

まず最初に、駅前公民館の利用状況について報告させていただきます。5月に新型コロナウイルス感染症が5類相当になったことで、公民館の利用規約はコロナ禍以前の状態

に戻りました。その影響もあって、公民館利用者数は、年間延べ3万3,385人と増加しまして、前年度比では107%となりました。

しかし、コロナ禍以前の平成30年度の人数を参考に見てみますと、年間5万4,944人が来館していたというデータが残っておりまして、増加傾向にあるとはいいいましても、当時のコロナ禍以前と比較すると、61%程度しか来館していない状態が続いており、以前の状態に戻ったとは言い難い状況になっております。コロナ禍の間に解散してしまったサークルもあります。今後は、また徐々にサークルを再開させていただくなどして、にぎわいを取り戻していきたいと思っております。

次に、自主事業について、幾つか代表的な取組を紹介させていただきます。

まず、「バンドチャレンジ講座6」ですが、これは名前のとおり、6年間にわたってバンドの初心者の方々にバンドへの取り組み方を教えてきた講座になります。

ただ、今年度で自主事業としての実施は終了することになりました。というのも、参加者有志のサークルが立ち上がりまして、今後は自主運営で活動が可能となったためです。既に令和5年度のセンターフェスティバルに参加していただいております、令和6年度の輪音にも参加予定となっておりますので、今後は自主運営で順調に活動していただけるものと思っております。

次に、「わくわくサロン」です。こちらは市民サークルに発表や団体紹介をしてもらい、お茶を飲んでゆっくりできる集いの場を設けようとしたサロンです。発表団体としてフェスには参加しない団体が発表してくれまして、一定のにぎわいを見せました。

ただ、市民団体の発表が終わると、皆さん、お茶を飲むのも切り上げて帰ってしまうということがありまして、そこは課題として残ったところとなりました。

次に、まちづくりイベント「輪音」ですが、こちらも毎年恒例の講座となっているのですが、今年は、白井高校が白井駅前広場で行ったSHIROI PLAYFUL FESと同時開催し、相互に広報活動を行いました。輪音のほうでは、近隣で活動する団体による音楽フェスを開催し、地域商店にも出店をお願いしました。この相互作用によって、昨年より大きな盛り上がりを見せる催しとなったと思います。

次に、「白井駅前センターフェスティバル」です。こちらは感染症予防対策による制限がなくなってから初めての開催となりました。昨年は1日目が雨天でしたが、令和5年度は両日とも晴天に恵まれまして、1,289人の来場者がありました。前年は973人の来場でしたので、かなり活気のある催しとなったと思います。

ただ、やはり参加団体の減少により影響が見られまして、発表団体の発表時間に空きができてしまうことがあったので、今後はこちら検討していく必要があるかと思っております。

令和6年度に向けてですが、コロナ禍からの立ち直りによる急激な変化が収まってきているのを感じております。今後も、利用人数などは大幅な増加は見られないものではないかと考えております。これからは一步一步着実に、地域住民がよりよい学びを得られる

よう運営を続けていきたいと考えております。

白井駅前公民館からは以上です。

〔事務局〕 ありがとうございました。

続きまして、桜台公民館、お願いいたします。

〔桜台公民館〕 桜台公民館から発表いたします。お手元資料の41ページをご覧くださいませ。

令和5年度、桜台センターは5年間の指定管理者制度の最終年度になりましたので、最後の年間テーマを続けるということにして、活動の継続を支援するという形で1年間、地域の方を見守りました。

公民館の利用者数、41ページ見ていただけますと、2万6,891人、前年度比108%です。児童館は1万3,408人、前年度比167%。桜台センターは、来ていただいた方に皆さん言っていたのですが、子供のいっぱい施設だねと言っていたいております。

そういう意味では、児童館の利用者数167%、徐々に戻ってきたなという気持ちでいっぱいです。図書室の利用ほかを含めると、4万9,900人以上の方がセンターを利用されました。

また、これもビフォーコロナに比べますと、あの頃は7万人ぐらいの方がお見えになっていたもので、まだまだ戻ったなというふうには思えない状況ではあります。

事業についてご報告させていただきます。42ページご覧ください。

全体の運営方針として、地域活動を見守ろうというところが全体の運営方針とさせていただきました。「さくセンフェスタ」や「地域イズム」などのイベントで、地域の方々が、これしたいなみたいな機会とか場所とかを提供することに努めました。もっとこんなことを知らせたいのという方については、さくセン通信でお載せしまして、周知の一助とさせていただきました。

(3)の重点的に実施した項目ですが、桜台センター、先ほど申し上げたように子供の施設と言われているところなのですが、高齢者向けのデジタル講座というのを特に重点的に行っています。毎年、毎年、年間を通じまして何回も同じような講座を繰り返し行っているところです。

次のページの43ページをご覧ください。

学習講座につきまして、家庭教育、青少年教育は、児童館と合同で全て行っております。複合施設の強みだなと思うのは、児童館の先生方が、子供たちの趣味とか、今のはやりとか、お母様とつながっていたりとか、そういうところで何を求めているかという事前の意見とかを取りまとめることができましたので、そのような内容で行ったのですが、この中で最後、青少年教育2番の学ぶKids「さくセンウォーク」なのですが、こちら初めて参加者数が3人という悲しい結果に終わっております。

青少年相談員さんと児童館と公民館、三つで合同でやっていたものなのですが、ここま

で参加者数が低くなったのは初めてで、ここはなぜだろうというところを今ものすごく考えまして。今年度ガラッと変わって、違うことを行おうと思っています。

成人教育に関しては、皆さんの生きがいづくりを目的として、興味を示したものをどんどん出てきてもらおうという考えで行っておりますので、もしかしたら、公民館としての意義であるサークルをつくろうとか、そういうところから離れている可能性はあるのですが、まずは1歩出てきていただくということで、チャレンジ的な内容で講座を今回は行っています。自宅でできるリンパとか、フォトアートなんて何なのというものとか、触ったことないけど、二胡って何、みたいなものに触れたりとか、座禅体験でお寺に行って、その中で禅の体験をしてみるとか、新しいことにチャレンジしていただくような講座を令和5年度はいっぱい開きました。

団体育成の「なろう！桜台地域サポーター」に関しましては、今年度で桜台公民館の事業としては卒業していただきまして、なぜかという、もうこの団体さんは、私たちの手がなくてもやっていける団体さんになったと判断いたしましたので、今後とも何かあれば、この団体さんをお願いして、いろいろなことを協力し合いながらイベントができればいいなと思っています。

事業とは少し離れているのですが、年間でセンターを使っの市民検診が行われるのですが、令和5年度はお試しで、健康課の方をお願いしまして、休館日に検診をやってみました。それによって、利用者さんが使えないお部屋とか、使えない駐車場とかがなくなりましたので、なかなか利用者さんには受けが良かったので、今年度は、全て市民検診は休館日に行っていただくような流れといたしました。

桜台公民館からは以上です。

[事務局] ありがとうございます。

続いて、学習等共用施設、お願いいたします。

[学習等共用施設] 富士センターの学習等共用施設の説明させていただきます。

まず、62ページをお開きください。

初めに、当センターの利用状況についてです。令和5年度は、利用件数1,879件、利用人数2万3,643人、貸出し施設の全体利用率が28.4%となっております。平成4年度に比べ、若干増えておりますが、コロナ前の平成31年度の水準までは、まだ回復に至っておりません。

当センターの運営方針ですが、私どもは、運営協議会自体が、地域住民が集まり学習等共用施設を運営するために立ち上げた団体の特徴を通して、地域連携の輪を大きく広げ、人との交流を支え合い、育んでいくというテーマで各講座に臨んでおります。

次に、講座実施状況ですが、64ページをお開きください。

令和5年度においては、引き続き新型コロナウイルスの感染防止に注意を払いながら、31件の講座、11件の事業を実施しました。人気のある講座は、複数回実施しております。

また、富士センターでは、毎年、人気のある講座の継続開催を中心に、乳幼児の親子交流や育児に役立つ講座、子供が楽しめる講座、思考力を育てる講座、救命救急講習等の安全、安心のための講座、地域住民や業者が意見を取り入れた学習や健康増進、趣味などの新たな講座を企画、開催してまいりました。おおむね好評をいただいております。

特に、小学生を対象に夏休み期間に実施する講座や、パン作りなどの料理教室、健康づくりの薬膳茶&ヨガ教室等が好評で、参加人数枠がすぐに埋まってしまうほどになっております。

逆に、最近、参加人数が減っている講座としましては、未就園児を対象とした地域や親同士の交流をする場を提供する家庭教育分野の講座が最近、参加人数が減っております。店舗等にポスターを掲示したり、開催日を変更したり、いろいろ工夫はしているのですが、参加人数が伸び悩んでいる状況です。

また、高齢者を対象としたスマートフォン教室も参加者が落ち着いてきたので、基本操作にLINE等のアプリの操作を加えた内容に変更している状況となっております。

その他の事業としましては、富士センターでは、第三小学校の開門時間までお子さんを預かる早朝預かりの子供居場所づくりのメニューをそろえておりますが、令和5年度中の利用はありませんでしたが、6年の4月から、新入生が1人、毎日のように利用されている状況に変わってきております。

また、富士センターでは、講座受講者にアンケート調査を実施して、市民がどんな講座を望んでいるか把握に努めておりますが、今後も市民のニーズに沿った講座を企画、実施していきたいと考えております。

さらに、富士センター内に社会福祉協議会及び小学校区まちづくり協議会の事務所もあることから、これらの団体と連携、協力し合いながら、富士センター協議会の目標としている、人と人との出会いの場、交流の場を提供し、絆づくり、次世代の担い手候補の発掘、連携、支え合いの輪づくりの一助になるように努めてまいります。

最後に、新型コロナウイルスの対策についてですが、現在も入館者が検温や指の消毒ができるように、入口に検温器、消毒薬を設置しており、任意に利用してもらっている状況です。

以上です。

[事務局] ありがとうございました。

続きまして、青少年女性センター、お願いいたします。

[青少年女性センター] 青少年女性センターの令和5年度の事業報告をさせていただきます。

お手元の資料91ページからご覧ください。

令和5年度の利用状況ですけれども、件数は1,207件、人数としては1万1,482人ということになりました。コロナ明けということで、少しずつ福祉センターのほうは、にぎわい

を取り戻してきているかなというところです。

ただ、毎年の課題となっている交通の便の悪さというのは変わらないというところがあります。

令和5年度の事業の運営方針ですけれども、住民一人一人の福祉ニーズに対応し、みんなが安心して暮らせるまちづくりの実現を目指して取り組む。そして、「誰もがありのままにその人らしく」をコンセプトに、子供から高齢者までの各年齢層が気軽に参加、交流できる事業の実施ということで掲げて取り組んでまいりました。

講座のほうですけれども、家庭教育、それから青少年教育、成人教育、団体育成、事業活動と分かれて取り組んでまいりましたけれども、家庭教育の子育て支援講座、それから親子チャレンジ講座というところでは、子育て支援講座のほうでは募集人数よりもかなり下回った参加者ということで、今後の課題となっているかなというところです。

逆に、親子チャレンジのほうは、かなり申込みの人数が多くありまして、合計五つの講座を展開したのですけれども、46組の参加者がありました。

ただ、親子といっても、父親の参加が少ないというところが今後の課題となって、令和6年度はその辺を考えて展開していきたいなというふうに考えております。

青少年教育では、「プログラミングで作って遊ぼう!!」、それから、夏休みチャレンジ大作戦、中高生向け講座ということです。理系の講座が多かったのですけれども、かなり理系の講座というのは人気が高くて、募集人数も多かったかなというところです。

成人教育ですけれども、女性のための「ストレスフリーライフ講座」ということで、有酸素運動、それからアロマ、防犯、マネープランということで講座を開いたのですけれども、ここも人数、定員が割っているような状況となってしまいました。

令和5年度、新たな取組として、さわやか県民プラザのほうからお話がありまして、障害者の学校卒業における障害者の学びの支援事業ということで「バランスボール講座」を開催いたしました。福祉センターのほうは、そこに福祉作業所が一緒に入っているもので、その利用者の参加というのもあったり、外部から、特別支援学校の方から参加があったりということで、新たな試みとしては良かったかなというところです。

事業活動、「福祉センターフェスティバル」ですけれども、地域の方々との交流の場ということを目指して開催いたしました。主に活動サークルさんの発表の場の提供ということで、いろいろなサークルさんの発表を行うことができました。参加者は約500名とまだまだ少ないかなというところがあり、令和6年度は、より多くの方々に来てもらえるような内容を行っていきたいと思います。

令和6年度ですけれども、今年度始まってしまっているのですけれども、これらの課題を見直しをしつつ、できるだけマンネリ化とならないように、より興味関心が持てる講座を展開していきたいと考えています。

簡単ですが、以上、報告となります。

[事務局] ありがとうございました。

以上で五つの館の事業報告を終了いたします。よろしくお願いいたします。

[委員長] ありがとうございました。

それでは、今のご報告に関しまして、何かご意見やご質問、皆様からございますでしょうか。

〇〇委員、お願いいたします。

[委員] 報告いただいた中で随分、利用者が増えたなという印象と、特に西白井さんは、5,000人超えた利用者が復活したし、4,000台、2,000台というような増えているので、すごいなと思いました。が、まだまだコロナ前よりは少ないみたいなことで、これからが楽しみだなと思って伺いました。

そんな中で、これ事務局にお願いなのですが、一番下の合計欄のところだけでも、前年度の数字があるとすごく聞きやすいかなと思いました。それが1点と。

2点目は、この7ページの利用者数は、あくまでも施設の利用者数なのですよね。講座以外の事業ですごい参加者数があっても、残念ながら、参加者数が入っていないのですよね。だから、たくさん集まっているのに、その実態が見えてこないのです。もしも、その数字が分かるようであれば、この講座以外に行った事業で数字が入ってくると、全体が見えてくるのかなというふうに思いました。まず、その2点です。

以上です。

[委員長] ありがとうございます。この参加者等の変化ですとかにつきまして、何か公民館様のほうから、お気づきの点とかございますか。今の〇〇委員のご意見に関して、補足等ございますか。

[事務局] まず事務局のほうから。まず1点目の利用者、昨年度との比較というのは、確かに私のほうも、資料をまとめていたりとか、この事業に限らず、コロナ前との比較、もしくは3年前、4年前とどうなのかなというところで、過去と見比べて、増えてきているけれども、コロナのときよりは戻っていないというのを調べた同じような体験がありますので、可能な限り、前年度の比較というのは入れていきたいと思います。

[委員] 前年度で結構ですから。

[事務局] まずは1年ですね。そこは対応したいと思います。

[委員] ありがとうございます。

[事務局] あと、講座以外のところの人数については、概要を私のほうで1回話しますが、皆さんのほうであればというところで。お部屋と違って講座以外の事業ですと、なかなか人数、日々、カウントするというのは難しいと思うので、正確な人数というのは難しいのかなとは思いますが、おおよそ何名ぐらいの参加というような、おおよそその規模であれば答えられたりするのかなとは思いますが、もし報告できる数字があれば、今後、頂ければと思うのですが。センターさんのほうで講座以外の人数を把

握するすがもしあれば、お願いします。

〔委員長〕 お願いします。

〔桜台公民館〕 桜台公民館です。桜台公民館では、受付イベント時には、受付に人数カウンターというのを入れていまして、通るとピッて鳴るものと、手でカチャン、カチャンと押すもので、子供と大人と分けて一応はやってはいるのですが、お子さん方、入って出て、入って出てされるので、正確かと言われるとちょっと難しいのですが、一応カウントはしておりますので、出すことは可能でございます。

今後、出せと言われれば、すぐに出ますので、欄があれば。一応テンプレートになっておりまして、そこに入れ込んでおりますので、テンプレートで人数入れなさいとなったら入れることは可能でございます。

以上でございます。

〔委員長〕 ありがとうございます。

〇〇委員、お願いいたします。

〔委員〕 今の話で、いつも利用していると、今日の団体は何人ですかと聞かれて書いた人数の集計でしょう。その数値を集計してるのではないのかなと思ったのですが、そうではない。

〔桜台公民館〕 あれは、防災用です。

〔委員〕 各団体のそれぞれ利用団体がどれくらいの団体数がいて、実際の数字では、そっちのほうが大半ではないですか。この今のももちろん活動も重要だと思うのですが、公民館の利用者人数としては、参加者の利用のほうが圧倒的に、この人数の内訳でいれば、この講座の参加人数と比較しても、10倍ぐらいしか出せない。だから、そこら辺の表現をしておいたほうがいいかなと思うのです。どれくらいの参加が実際に何回、細かくは必要ないかもしれませんが、どれぐらいの人数使っていますよという数字的な表現があったほうが、それは、そんなに集計上難しくないのかなと思ったのですが、多分、我々がいつも書いている感じでいうと、入門証と最後、受付表をチェックすれば、全部すぐにできてしまうという話かなと思うので。すいません。

〔西白井複合センター〕 では、西白井複合センターよりお答えいたします。ただいまのサークルごとの人数の集計ですが、そちらの数は、7ページにございます利用状況のほうに上がっている数字かと思われます。

ただ、先ほどのご質問のあった講座以外に行った事業とか、あと講座ごとの人数というのは、ここには入っていないのですが、集計するに当たりましては、先ほどのちょっと当てにならないカウンター表示の数字とか、そういうのになってしまいますね。

あと、講座もお申込みをいただいて、参加人数は分かります。ただ、今すぐには分からないというところです。

〔委員長〕 ありがとうございます。祭りとかも、カウントして人数が多かったから、成

功というものでもないと思うのですよね。やはり主催者側でも、盛り上がりが昨年度よりもあったとか、その団体としてとか、イベントの、行事の発表者数が増えたとか、あと、売上げ、キッチンカーとかの売上げ、どちらが人気で、昨年度よりも一つキッチンカー増やして、そこが好評だったとか、そういうふうな主観的なものも入るかもしれないですけども、そういうところも報告に反映していただきますと、多分、数字もかもしれないですけども、絶対的なものではないと思う。逆にそれが今度、減ってしまうと、今年はいんまり祭りが盛り上がらなかったのかになってしまうと思うので、そこはいんまり、とられすぎず、むしろ、その内容的なところの感覚を今度また次回とか共有できるようにしていただければと思います。ほか。

お願いします。

〔委員〕 すいません、度々。先ほどの報告幾つか受けた中で、類似の事業、例えば子供の理科教室みたいなやつですよね。そういうのをやっていて、盛り上がっているところと、あまり来なかったなという、ばらつきがあるようなのですが。公民館同士の交流として、そこら辺の情報共有をして分析をされたほうが、より深い対応になるのかなと思ったのですけれども、そこら辺は、事務局も含めて考えていただけるといいかなと思うのですが、どうでしょうか。

〔事務局〕 それでは、事務局のほうからお答えします。情報共有については、月1回センター長会議というものを行っておりまして、その中で、毎月行った事業と、その月行う計画の事業、その中で、参加人数とか申込み状況というのは、月に1回情報共有を行ってございます。

センター長会議とは別に、今度、担当者会議ということで、各講座の担当者の集まりも月に1回やっておりますので、そこで情報共有はしているかなということはありません。

ただ、センターによっては、こっちでは人気あったけれども、こっちでは人気ないねとかというところで、何かタイトルとか、そういったところで気づきがあればと思って情報共有はさせていただいております。

以上です。

〔委員長〕 ○○委員、お願いします。

〔委員〕 従来よりかは、まだ参加される人たちが少ないというお話がありましたが、参加者を増やすのには、今、市民の意識が何となくほかのほうに向いてしまっているからということが駄目なのか、例えば、いい企画をつくれば、いっぱい人が集まってくるのか。

あと、皆さん、何人かの公民館の方が言いましたし、書いてあるのは、情報はどういふふうにして募集していますかという、「広報しろい」と書いてありますよね。何をしたらいいかといって、いい企画であれば人が集まるということであれば、先ほどの話と違うのですが、白井市は大して大きな町じゃないので、児童館的なことは、歩いてくる子供の対象になるかもしれないけれども、成人については、ほとんどある程度同じなので、いい

企画があれば、ほとんどの会館であっていいのではないかと思いますのですが、例えば座禅なんかは面白いなと思ったのですが、私、そういうのが、さっき情報共有されていますっておっしゃっている割には、五つの会館のうち三つか四つは、同じ企画があっていいのではないかなと素人的に非常に思うのです。

もう一つは、なかなか「広報しろい」の小さなこの何文字以内で書いてくれという話が、秘書課から出てくるのですけれども、それには1回では、なかなか目に触れるものが少ない。会館に行って、逆に掲示板にダーッと貼ってあるのは、あまりにもいろいろな掲示板が多くて、見るできないぐらい。そうすると、やはり一般の人が見るのは、いろいろなことでも「広報しろい」だと思っただけけれども、「広報しろい」にもっと、紙面の問題があるからという話が常に出てくるんだけれども、サークルの募集についても、1年に一遍しか出させない。それは秘書課が管轄しているからという話だと思うのですけれども。事業をやるについては、何回か出せますよという話になっているけれども、何回も出ているニュースは見たことがない。

もし、いろいろな会館で、いいイベントがあるんだったら、それを一覧表にし来月イベントがこれだけありますよというような形で、15日ごとに出したらいいのではないかと思います。簡単な一覧表でみたいなことで。そうすれば、少しいわゆる情報伝達ということではクリアできると思う。

先ほど事務局が言った共有されていますというのであれば、ほかのところで同じ事業がほとんどないのは、何か理由があるのですか。

以上です。

〔事務局〕 まず、各センターの予定というところで、今日、本来であれば配っておくべきものを今日、配り忘れたのですけれども。学習のガイドというのが、上半期と下半期で各センターから情報を集めていまして、こういったものを各センターとか窓口のほうに置いてございます。今日も会議前に机に置いておく予定が、私のほうで失念しておりましたて申し訳なかったのですけれども。半年ごとの集計というのはしております。

各センターが同じものをやるかやらないかというところは、それぞれ指定管理者のほうに企画、立案お任せしておりますので、全部が全部、同じ講座だけというわけにはいきませんので、参考にするものもありますし、年度を変えて、ほかのセンターでもやることはありますので。人気があっても、全部の館でやるという状況には、現状はなっておりません。

〔委員〕 全部とは言っていないでしょう。だから、五つの会館があれば、いいなというやつについては、二つでも三つでも、同じところがあっていいのではないですかという話です。

あと、学習ガイドという話では、市民の目に1枚も触れていない。触れられていない、ほとんど。

先ほど、どういう形で情報伝達しますかって、「広報しろい」だといっているのです。この紙がありますでは、伝達の答えにはなっていないです。

〔事務局〕 「広報しろい」というのが一番、今のところ、各センターとしては申込み状況が多いという話はお聞きしています。各センターも、ホームページとかSNS、そういったものを活用して周知はしているところですけども、皆さん、情報収集の手段というのは一律ではないので、どこかで引っかかるようにということで、いろいろな手段をご用意しています。

その一環として、紙というものも、先ほど、半月なり1か月ごとに集計したものをということ、お話がありましたので、一応、ご用意している半年ごとのものをお出しいたしました。

あと、センターのほうで、センター長会議とかで、ほかの館のほうで人気があったなということで、同じ年度とは限らず、参考にした事業とかがあれば、ご報告いただければなと思うのですけれども。あればお願いします。

〔白井駅前公民館〕 白井駅前公民館です。この学習のまとめの中では、駅前センターでは「ライフサポート講座」という名前になってしまっているの、分かりづらいことになってしまっているのですけれども、こちらでNISAの解説の講座を行いました。こちらは好評をいただきまして、その後、駅前センターのほうに問合せを他館の方からいただきまして、詳しくは把握していないのですけれども、その後、2館か3館ぐらいのところでやっていただいたと記憶しています。

それから、逆に他館で好評だったものを取り入れようとしたときに、試しに対象年齢を子供から大人に引き上げようとしたら、それが原因だったのか分からないのですけれども、それだとできないと言われてしまいまして。講師の先生のスケジュールや方針などがあって、断られてしまうというケースもありました。

以上です。

〔委員長〕 ありがとうございます。

これは、私個人の案というか例なののですけれども、パッと思いついたことなのですが。例えば、まず「広報しろい」のスペースがどうしても一定のものしかない。これは致し方ないことだと思うのですよね。なかなか難しいことだと思います。

ただ、例えば、こういうふうなものも置いてありますといっても、皆さんが手に取るかということ、やはりそこもまた難しいところがあるかもしれない。今は本当にどんどん、どんどん一般的になってきているのですけれども、QRコードといって、書面のところに、今パンフレットもみんな、もうそういうふうになってきているとは思いますが、こういうバーコードみたいな感じのそれがついてあって、そこにアクセスをすると、例えば、「広報しろい」の、これが全部バンと出るとなかなか見つけられないのですが、その「広報しろい」で出ている、その月のこの講座がここにありますよみたいなものであるのが、一覧

で見れるとか。

ただ、そのQRコードもなかなか、やはり取り込んだりするというのがちょっとよく分からない、何だこれはというふうに思う市民の方がいらっしゃると思いますが、そういうのは、公民館ですとかの中で、QRコードはこういうふうにするのですよみたいなお知らせみたいなのが全館であると、これ便利だなと言って、そのときに「広報しろい」でアクセスをQRコードのほうですると、一覧が出てくるなというのが結構、周知していただけますと、もしかしたら、もっと項目が少ないほうが、事業が少ない、目に見えるものが少ないほうが、これ面白そうだなと入ってくると思うのですよね。

例えば、そういうふうなことであれば、意外とすぐに、SNSでたくさんいろいろな公民館に一個一個アクセスするというのは難しいのですけれども、やはり「広報しろい」というのは、皆さんが手に取るものなのであれば、より先に情報がゲットできるようなシステムづくりは、事務局のほうでもお手伝いができるのではないかなというふうに思いました。

あと、交流して、良かった事業をやってみようという取組は、本当にプロモーションの視点からもすごく大事だと思うのですよね。そのときに、私も例えば消費者の一人とかという感覚でいいますと、どこどこ公民館で人気でしたみたいな一言が入ると、おっ、というふうに思ったりもするので、そういうふうな声かけなども、もしかしたら、だったらちょっと行ってみようかなとか、ちょっとお得な気がするなという感じで足を運んでくださる方がいたりするのかなというふうにも思いました。

ぜひ、全てというわけではないですけれども、館を超えて、何か同じような取組がしていけるというのは、私は評価すべきことだと思います。みんな同じことやっているのではないかなというふうにはならないと思います。積極的にお願いしたいと思います。

すいません。私、いっぱいしゃべってしまいましたが、ほかの委員の皆様、何か。

〇〇委員。

[委員] 〇〇です。よろしくお願いします。ここに書かれている内容ではないのですが、こういうのがあったらいいかなというのを考えているのですけれども。公民館は、ここ白井に住んで、なかなかお友達同士で、ちょっと腰を下ろしてコーヒーでも飲んでおしゃべりするという場所がなくて。

私、西白井のお友達がいるのですけれども、そこで待ち合わせは西白井公民館なのです。そこは広くて椅子もたくさんありますから、そこで待ち合わせして、おしゃべりしていくという、30分から40分なのですけれども、そういうスペースが各館にあると、もっともっと親しみやすく、また馴染みやすい公民館になるのではないかなというふうに思っているのです。

この間、白井駅前センターに行ったら、白いかわいいテーブルと椅子が並べてあって、ここならサークルが終わった後、少しおしゃべりタイムができるかなと。そういうふうに、

ただただ活動するだけでなく、ほっとする場所でもあっていいのかな。それが全館にあれば、公民館という存在が、より身近になってくるのではないかなと思います。

それと、もう一つですけれども、ここに部屋ごとの利用人数が書かれているのですけれども、この横にでも、サークルの数を書くと把握しやすいのではないかしら。去年は30あった団体が、今年は31に増えたとか、減ったとか、そういうのが分かりやすい。なぜ減ったんだろうとか、なぜ増えたんだろうとか、そういうのが分かりやすい数字になるのではないかなと思います。

そして、私、新しいサークルを立ち上げるのは、とても一苦労だなと思ったことがあるのです。まず、5人集まらないとサークルが立ち上がらないというところはネックかなと思うのです。それを3人、少なくとも、成立しないけれども4人、その辺はちょっと柔軟な、4人しか集まらないんだけど、これやりたいですといったときに、いいのではないかなというふうに。今のところ5人という制約がありますから、なかなか立ち上がりにくい。

それともう一つ、立ち上がったら、そこで部長と副部長と会計を決めなくてはいけないという、あるのですよ。確かに役職は必要かもしれないけれども、なかなか部長になり手がない。じゃあ、もう3人全員、部長でいいのではないかと、そういうような考え方でいかないと、やっぱり部長になると大変だなと思うのが人間なのですけれども、これが3人でやればいいかなと思うと、気も楽になるし、サークルも立ち上がっていくのではないかなと思います。

あと、サークルを立ち上げるのに、いいこともあるのです。バックアップしてもらったことがあるのですけれども。お部屋代の2か月か3か月は少し無料になるし、声かけもしてくださるというような温かい面もあるので、その辺のサークルを立ち上げやすいような、今言ったように、部長、副部長、会計、必要なかな、あと人数をどうして5人かな、そういうところを練り直していけば、新しいサークルも立ち上がりやすいのではないかなというふうに思います。サークルが立ち上がれば、各公民館の利用者数も増えてきますし、いいのではないかなと思いますけれども、いかがでしょうか。

〔委員長〕 ありがとうございます。〇〇委員の今のご提案に関しまして、人数等の規定に関しまして、事務局のほうで何か理由等、ご存じでしたら教えていただけますと幸いです。

〔事務局〕 貴重なご意見ありがとうございます。今すぐに人数減らすとか、役職、そうやって規約とかなしでというのは、すぐには難しいのですけれども、市民のニーズとしては、市民だけの団体じゃないと駄目だとか、そうはいっても、市内に限らず、お友達というのはたくさん広くいると思いますので、その辺で、ご利用に関していろいろ制限がかかっているというのは認識をしております。

なかなか団体の中でも、半数以上が市民でないと駄目だとか、いろいろあるところは認

識しているのですけれども、今後、センターもだいぶ老朽化してきていますし、いろいろな改修とか、こういったことが先々進むと思うのですけれども、そういった中で少しずつ緩和をして、センター利用される方も運営する側も、より良く使いやすいような形に徐々に変わっていければと思うのですけれども、今すぐにこういうことができますとか、こういうところ変えられますというのは、私のほうから今すぐには難しいのですけれども、そういったニーズがあるというのは、貴重なご意見として伺っておきたいと思います。

〔委員長〕 ○○委員。

〔委員〕 各公民館の方はどうでしょうか。サークルを立ち上げたいというときに、ネックになっていることは何なのかということ、今もいろいろな上がってきていると思うのですけれども、人数なのか、そういうふうに市内の人でないと、5人集まらないと駄目とか、何がネックでやれないのかな。それを聞いて、現状を聞いて、それを解消すれば新しいサークルも立ち上がって活発になっていくのではないかと思いますので、ちょっとお聞きしたいかなと思います。

〔委員長〕 いかがでしょうか、公民館の皆様。何か市民の方からのお声などがもし届いておりましたら、共有していただきたいと思います。

〔白井駅前公民館〕 白井駅前公民館です。やはり人数に関しましては、立ち上げの際に言われることは少ないのですが、逆に5人以下になってしまって、もう我々は解散しなければならないのではないかとのご相談を持ちかけられることがあります。実際にもう人数がいないので解散しますと言われた方もいましたので。

もちろん、ほかの原因があって、表立った理由を人数として、こちらに説明した可能性もあるのですが、一つの基準にはなっているのかなという印象が、人数に関してはあります。

〔桜台公民館〕 桜台公民館です。桜台のほうでは、サークル化するためには講座をやって、そこからというのが今までのセオリーだったのですけれども、カルチャークラブみたいに、ご用意して、先生も呼んできて、座ってお客さんでというのだったら参加するけれども、自分たちで曜日を決めたり、部屋を取ったり、先生呼んでくるとか、会費を集めるとか、そういったことになると、あまりやりたくないみたいな風潮が今はあります。

ですので、桜台に関して言えば、増えてきている団体さんは、ほぼ自分ちの家族だったり、お友達だったり、そういう人たちとレクホールでバドミントンしたいから、サークルになりますみたいなところは多いのですが、何か生きがいの、ずっとやりたい生涯学習的な、趣味が同じみたいな人たちが集まることが、まず少なくなっているのかなと思います。

お部屋を取るシステムに関しても、手取り足取り、お教えはするのですが、覚えられないというのがとてもネックになっているみたいで、部屋を取るのもちょっと大変かなというのもあると思います。

以上です。

[委員長] ありがとうございます。

お願いします。

[学習等共用施設] 富士センターですが、団体と個人の差があるのは、利用者予約ができるかできないかぐらいの話であって、個人で取って、自分たちの仲間を連れてやっている方もいらっしゃいます。

講座でよくやって、据え膳上げ膳ではないですけども、全部準備してあるなら参加したいと。でも、自分たちでは、その準備もやりたくない。誰かリーダーシップとかやってくれば参加しますよとか、そういう意見は、よくアンケートでお聞きします。

ただ、そこにリーダーシップを取る人がいないので、サークルができないというのが結構多いパターンです。

だから、5人というのは、あまり私としては関係ないのではないかと。個人で自分たちの仲間を呼んでやっている方もいらっしゃいますので、あまりサークルと団体をつくらなくてはいけないというこだわりは私は感じません。

以上です。

[委員長] よろしいでしょうか。こういうような現状も、〇〇委員のこの一言がなければ、我々も共有できませんでしたし。結構、今の部分って大事だと思うのですよね。だとしたら、余計に今の公民館事業の一つ一つの講座であったりとか、この事業というのがとても大切なものになっている、求めている可能性があるわけですね、地域の方たちが。何かそういう場があれば、したい。自分たちでは立ち上げられないけどというふうにもなると思いますので、だとすると、本当により皆さんに届くようなシステムづくりは、やはりしなければいけないことになってくると思うのですね。

このサークルを立ち上げるということに対しては、もちろん公民館の事業として、お手伝いというのものもあるかもしれないですけども、これは役所としても、生涯学習課だけでは実はなく、もっとほかの課も含めて、地域活動、市民活動もありますし、実はそういうところが組織を立ち上げるための背中を押すような、そういう講座であったりとか、そういうことも、ここだけではなくて、やるべきものだし、実際にやっていることもあると思いますので、そういうところとの連携だとか共有ということも必要になってくるのかなというのを感じました。〇〇委員、ありがとうございます。

ほかにいかがですか。ありがとうございます。

〇〇委員。

[委員] 何を今さらの話になるのですけれども、実は2月に、6年度の事業計画、承認というか、承認になるんでしょうかね、4月から始まるので、2月にやっておかないとまずいというのは重々承知なのですが、この6月に、前年度の実績報告ということで、どうも順序が逆ではないかなという気がしてしょうがないのですね。前年実績を踏まえて本

年度計画というのが、本来であれば筋なのかなということだと思った。でも、タイミングの問題があって、多分しょうがないんだろうとは思いますが、少なくとも12月ぐらいまでの中間報告みたいなのを各センターさん、月次で実績持っておられると思うので、事務局のほうも持っておられると思うので、サマリーでもいいから、事業計画を決めるときに、その部分も併せて提示してもらえると判断の材料になるかなというふうに思っています。それを見ての課題認識があって、事業計画につながっていくのだというふうに思いますので、ぜひそこら辺は、次回からお願いしておきたいなと。できるかどうかはちょっとあれなのですけども、ご協力いただければなというふうに思っています。

併せて、一番最初にお話あったのですけれども、経年での実績推移を表現してくれということで、全くそのとおりだというふうに思っています。前年度、前前年度の実績があって、さっきも言ったように当年度計画が出てくるわけで、これがなくて、去年の実績これでしたというふうに出されても、どういう経緯があってこうなのだというのが分からないので、それはぜひとも、数値編のところで結構ですので、表現記載してもらえると判断しやすいかなというふうに思っています。

実は、前年度のものと比較してみましたが、途中でギブアップしてしまいました。これはぜひ事務局、各センターさんのほうにお願いするしかないかと思います。

以上です。

〔委員長〕 ありがとうございます。コピーして横に貼っていただくだけでも、並べていただくだけでも違うと思いますし。この報告と計画については、私、頭の形、結構、前にもその話ありましたよね。

〔委員〕 私も去年、同じ意見を言っています。

〔委員長〕 そうですね。何回か出ているなというふうには感じておりますが。確かに中間的な形での資料の示し方とか、我々への共有というのは、確かに。もしかしたら大変なのかもしれないですけども、可能なのかなとも思いました。私も、そういう中間地点でのという認識というか、頭の発想はなかったの。〇〇委員ありがとうございます。

〔委員〕 すいません、言い忘れてしまったのですけれども、今、お話聞いている、経年で実績を記載してほしいということは、変化が分かる、課題解決の道筋も見える、いいところは伸ばせばいいんだというふうに思うのと同時に、各センターさんのお話聞いたら、西白井さんは、障害者のための学習指導って、今期初めてですかね。タイトル見ていたら発見できなかったの、初めてですよ。

〔西白井公民館〕 昨年度初めてです。

〔委員〕 それと、白井のバンドチャレンジ。これが25が15、激減しているのかな。さっきの話で、数字を見ていても。間違っていたら申し訳ない。桜台の動員総人数が107%で、これはこれで評価に値するのかなというふうに思っています。

それから、学びキッズは、35が3。ご本人は大変ショックだというお話があったので、

これも、これ見ただけでは分からないのですよね。前年がどうで、その前がどうで、だからこうなんだ、それは課題があるから、こうだったというお話をいただけたら、なるほどなと納得が高まるので、ぜひお願いしたいなというふうに思います。

以上です。

〔委員長〕 ○○委員、ありがとうございます。

たくさん、ご意見、ご感想頂戴いたしましたけれども、いかがでしょうか。

○○委員、お願いいたします。

〔委員〕 別件で、これ事務局への質問ですけれども。先ほど指定管理者の話が出て、職員構成の観点から、この資料を見ていたのですけれども。

例えば6ページでいくと、職員構成とございますけれども、増えているのですよね。指定管理者制度も十分に理解していないのですけれども、増やすこと、減らすことというのは、各センターで自主的に、その予算の範囲でというような理解でよろしいのでしょうか。

つまり、多分委託費の予算が少なくなっている中で、職員を増やすというのは大変なんだろうなって思っていて。例えば西白井さんは3人増やしているのですよね。これ、すごいなと思って。利用者数も5,000人以上、今回増えているのですけれども、そこは制度的にどうなっているのか教えていただければと。

以上です。

〔事務局〕 お答えいたします。指定管理者の人数については、募集する際に、募集要項で1日の人員の配置の人数をお示ししています。それに対する人件費という形で金額のほうをお出しして、その中で、センターさんのほうで、最低限度の人数は確保しつつ、皆さん、休暇を取ったり、病欠があったりということで、代替の人員も配置しなければいけないのですけれども、その融通については、各センターにお任せをしているので、あくまでもこちらとしては、1日必要な人数をお示しをしているので、その中で、交代要員含めて人数を配置していただいているという形になります。

以上です。

〔委員長〕 よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、よろしいでしょうか。今回は、たくさん委員の皆様からご意見を頂戴いたしました。ありがとうございます。今後の公民館の事業におきましても、ぜひご参加をいただきまして、引き続きよろしく願いいたします。

それでは、続きまして、議題2、令和6年度社会教育関係団体の認定について、事務局より説明をお願いいたします。

〔事務局〕 それでは、議題の2の令和6年度社会教育関係団体の認定についてということでご説明をいたします。

今日、お席のほうに追加資料という形で、次第も含めて置いておいたのですけれども、次第のほうに書いてありますとおり、今年度は申請団体がいないため、認定に当たっての

意見聴取はなしという形でなっております。議題とは若干それるのですが、ここ3年の社会教育認定団体の認定についての推移をご説明しておきたいなと思ひまして、追加資料を机の上に配付させていただきました。

まず、認定数推移という形で横向きの表があると思ひます。ここ、経緯をお伝えしますと、平成31年度の前、30年度の頃に、社会教育認定団体さんは100団体を超えていたのですが、当時問題になっていたのが、社会教育認定団体さんに認定されますと、各公民館の利用料は、半額減免という形で使えるような制度になってございます。

当時、平成30年、29年頃からだと思ひますけれども、半額のみを目当てにした登録というのが実情としてありまして、それは本来の趣旨とは違うということで、認定に関してもう少しきっちりやるべきだというような流れがありまして、平成31年度から、認定について厳しくというか、ちゃんと社会教育団体として、市民に対して社会教育をするような環境にあるのかどうかというところを判断材料にさせていただきました。

そのスタートは、平成31年度だったのですが、その際、101団体から申請がありまして、認定されたのが35団体で、不認定となったのが66団体ありました。令和2年度になりまして、申請数が8団体ありまして、半数の4が認定で、半数の4が不認定という形になりました。おおよそ、ほぼほぼ団体さんが審査をされまして、令和3年度については、申請がなかった。2件あったのですが、2件とも不認定という形になりました。

認定期間が3年ということで、これが3年周期で更新というような流れになりまして、令和4年度が28団体。35団体の中から28団体が更新の手續をされて、認定されましたという流れです。

令和5年度、昨年度は、令和2年度に認定された4団体に加えて1団体、新規の団体さんがあって、この5団体。その流れで、令和3年度は認定された団体さんがいませんでしたので、その流れを組んで、令和6年度も申請数がなかったというような流れになっております。

矢印右側に示しておりますけれども、3年間の認定数ということで、おおよそ35から39という形で推移をしております、令和6年度現在、33団体が認定されておりますというような状況です。

資料につけさせていただきましたけれども、A4縦の資料ですね。平成31年度からの団体の認定の推移がありまして、令和5年度と4年度、こちらにある5団体プラス28団体で、合わせて33団体が今現在、社会教育関係団体として認定されている団体数になります。

A3横の資料につきましては、今の団体さんの活動内容と、少し紹介を書いたものになってございます。

昨年度、5団体、皆さんにご意見を頂いて認定したところなのですが、その中でも条件付きで認定をした団体がありますので、その報告についても必要かなということで、今回、資料のほうをつけさせていただきました。

A 3 横の 1 枚目のところの認定番号 2 番の団体ですね。こちらが白井駅前囲碁愛好会さんで、タバコのマナーのルールが悪いということで、認定に対する意見として、公民館等施設の利用ルールを厳守することを条件とするということで、昨年度行いまして、一応、昨年度、生涯学習課としても、その団体さんの活動日に見に行きまして、駅前センターの職員さんのほうで注意をしていただいているような状況なんかも確認をさせていただきました。先日も、センターの方に確認させていただいて、タバコのルールとしては、館内で当然、吸わないというルールは守っていただいて、認められないよねというところまでのマナー違反というのは、1 年間なかったというような形で確認をしましたので、引き続き認定というふうに生涯学習課としては考えております。

それから、4 番の千葉ニュータウンシニアアンサンブル、ノービレさんのほうについても、コロナ禍以前の活動が行えるような状況になり次第、社会教育活動を実施することを条件とするということで、昨年度の実績報告書を頂いておりまして、その中でも、以前行っていたような演奏会というような形をいろいろなセンターでやっていただいたり、施設のほうでご活躍をいただいていたりとかしているということは、あとは慰問施設への DVD の配布等も再開されたということで、こちら条件のほうは満たされたということで、3 年間の認定を引き続き行っていこうと考えております。

議題 2 についてのご説明は以上となります。認定に関しての意見を伺う場ではないのですけれども、今回、お配りした資料について、何かご質問等あればお答えしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

〔委員長〕 事務局からのご報告ありがとうございます。プラスで資料等も準備して下さりありがとうございます。皆様のほうからはいかがでしょうか。

この条件付きの団体につきましても、順調に認められるような良い傾向があるということで安心いたしました。委員の皆様からはよろしいでしょうか。

〇〇委員、お願いいたします。

〔委員〕 最初に、この制度が見直しがかかって始まったときにも説明を受けたとは思いますが、ここの市として考えるべきかどうか分からないのですけれども、この社会教育団体の数を増やすべきだと考えるかどうかというのがあるのです。削ったというのももちろんあると思うのですが、要するに、活性度のある社会教育団体が一つでも多くなるようにいろいろと取り組んでいくべきだろうと私は思っているのですが、そういった方針は持っているかどうかと、まずお聞きしたいなと。

〔事務局〕 社会教育関係団体に限らず、地域の皆様には、生涯学習という形でいろいろな学び等を行っていただきたいので、団体数を増やすとか、サークルさんを増やすという方針ではございます。

ただ、その半額減免という部分に関しては、自分たちの楽しむだけの活動ではなくて、広く市民に、周りの方たちにいい影響を与えていただくような形の活動というところで、

その対価というわけではないのですけれども、そういった活動に関しては、使用料のほうの半額減免という形でお金が絡んできますので、そういった活動をきっちりされているかどうかというところでは審査をさせていただいているのですが、決して数を減らそうという形ではなく、なるべく増えていっていただきたらなというふうには考えております。

以上です。

〔委員〕 できる限りこういった団体が、白井のためになる団体が数多くあってほしいというのはわかりました。それについて、今回0だったのは逆に寂しいなと思うのですが、何かそこら辺の手は、今後の対策とか、あって然るべきかなと。そういった対応は今後考えていращやるのでしょうかという質問です。

〔事務局〕 今すぐということではなかなか難しいのですけれども、ここ何年かコロナで大分サークルさんが減っているという形でも聞いていますし、高齢化の波もあって、コロナ禍を機に活動をやめてしまったというのは、今までのセンター長会議等でも聞いているので、その分、活動場所としては余力があるのかなとは思いますが。生涯学習課だけで何かサークルを増やす手立てというのはできないので、今後、センターとも、いろいろ相談の上で増やすような方向に持っていければとは思っていますが。今の時点で何か手立てがあるかという、すいません、ご用意はできていません。

以上です。

〔委員長〕 ありがとうございます。

〔委員〕 ぜひ前向きな検討をお願いいたします。

〔委員長〕 まず1点、今後このような団体をしっかりと増やすというよりも、先ほどの〇〇委員のお話にもつながるのですけれども、ちょっとでもやってみようかなと思う方たちがチャレンジできるような、そういうふうな機会は必要だと思うのですね。

今までも、以前から事務局のほうも、大変いろいろと皆さん考えてくださいながら、例えば説明会を館で実施したりですとか、あと、どうしようかなと思っている方たちに対して、しっかり寄り添ってくださって、しっかりとした申請書を出すために先に説明をしてくださったりとか、そのような本当に地道な活動にはなると思うのですけれども、募集しますと大きな広報をというのではなく、そういう地道な丁寧なちゃんと活動をするのが一番大事になってくるかなとも思います。

これから、やはりそういうちょっとやってみたいなというところ、あとは、継続したいのだけれども、ちょっと下火になって困っているなという団体さんが出てくる可能性はありますので、まず継続、必ずしていけるようなお手伝いとともに、そういう市民の方たちのお気持ちというか、姿勢がありましたら、ぜひ今後とも、館の皆様の事務局のほうでご支援をお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

ほかによろしいでしょうか。

〔委員〕 多分、今サークルの減少とか、我々の自分の団体もそうなのですから、キーワードとしては、高齢化と、あと多様化だと思っています。白井の問題は、多分これが大きくて、いろいろな人が集まりにくいというのは、多分そういった多様化という面では都市に近いでしょうし、いろいろな面で便利なところではあるのですが、それとともに高齢化が進んでいるので、そこをどう取りまとめていくか。そうやってサークルをつくって、いろいろな仲間と一緒にワイワイ、ガヤガヤしようぜという雰囲気をつくっていく必要があると思うのです。

そのためにも、できるだけ公民館の方とか市の方に、多様化のところを取り込むようなアイデアを、僕も具体的なところを持っているわけではないのですが、例えばサブカルチャーの問題とか、漫画とかアニメとかを含めたサブカルチャーの問題とか、いろいろなある程度、多様性を持った対応をできるだけこれから検討いただければなというお願いというか。私も具体的なことがないので、偉そうなことは言えないのですが、そんなことを考えていただければうれしいなと思いました。意見です。

〔委員長〕 ○○委員、ありがとうございます。

では、よろしいでしょうか。

○○委員。

〔委員〕 事務局に質問なのですけれども、この認定数推移の中で、令和3年も同じように認定数が0になっています。申請数が入っていないのですが、令和6年度は申請もないから、当然、認定数も0ですけれども、令和3年は申請はあったのですか。それが1点です。

〔事務局〕 令和3年は、申請数が2件で、その2件とも不認定でした。合計欄ないので、認定と不認定を足した数が申請数となります。

〔委員〕 ありがとうございます。

2点目は、先ほど、条件付きの団体に、指導していただくのは、当然だと思うのですけれども、各センターからする方法もあるでしょうし、もっと強く指導したいなら、教育委員会のほうから直接みたいな話も出たかと思いますが、教育的指導はきっちりやったほうがいいのではないかと思います。

団体を増やしたいという気持ちは分かりますけれども、やっぱりルールは守ってという基本はあると思うんですね。

それから3点目は、基準の見直しが先ほど5人の人数の話が出ましたが、そんなことも含めて、事務局でいろいろ検討する中で、基準にも触れていただいたらいいのかなという気はいたします。

以上でございます。

〔委員長〕 ○○委員ありがとうございます。事務局のほうも引き続き、ご検討のほうお願いいたします。

ほか、よろしいでしょうか。

確かに、この令和3年度のときにも、もしかしたら、この不認定になってしまったということで、これをそのままにしていいいのかという皆様のご意見と、どうにかこの2件を救えないかどうかという、たしか議論があった気が私もしております。そこで事務局も、説明会ですとか、あと公民館の皆様がフォローしてくださった記憶がございますので、この辺りも、引き続きよろしく願いいたします。

それでは、続きまして議題3、その他について、事務局からお願いいたします。

[事務局] 議題の3、その他ですけれども、今回については特にございません。

[委員長]

それでは、以上をもちまして令和6年度第1回白井市生涯学習推進委員会会議を閉会いたします。本日は長い時間になりました。ありがとうございました。